



■指標						
種類	指標名	単位		H26年度	H27年度	H28年度
活動 指標	市内文化財巡視活動	回	目標	12.00	12.00	12.00
	権名家住宅、出島のシイ等市内の文化財の現況を掌握するため、巡視活動を実施する。		実績	12.00	12.00	0.00
	指定文化財の活用	回	目標	1.00	1.00	1.00
	地域の宝である指定文化財を活用し、その重要性をPRする。		実績	1.00	1.00	0.00
成果 指標	文化財保護事業に関する補助事業及び委託事業	件	目標	1.00	1.00	1.00
	指定文化財への補助や公開謝礼・管理謝礼を支払い、管理者の負担を軽減しつつ、永続的な手段で文化財を守り伝える。		実績	1.00	1.00	0.00
	文化財の公開に関する事業の実施	件	目標	0.00	1.00	1.00
	指定文化財の一斉公開を実施することにより、市外・県外からの来訪者増加を図り、市民の地域への誇りや郷土愛の醸成に寄与する。		実績	0.00	1.00	0.00

評価の部 (SEE)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 総合計画における、文化財などの継承と保護、活用を行うものである。
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は、税金を投入して事業を行うことが妥当か。	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 地域の財産である文化財を保護、継承するものであり、地域の先人たちやふるさとに対する誇りと愛情を構築するため必要である。
有効性 評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上らない理由はあるか。	<input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 地域の人たちにとって、歴史への理解と愛着が持てる活動を推進することができる。
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない <b>【理由】</b> 地域の文化財が荒廃し、歴史遺産が分からなくなってしまう。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <b>【理由】</b> 地域の財産でもある文化財を後世に伝えるため、事業を推進する必要がある。
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <b>【理由】</b> 文化財の所有及び管理には、経済的な負担が発生するため、市や県から補助及び市民やボランティアの協力によって保護継承している。
公平性 評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 文化財の所有者は、市をはじめ個人や集落等が管理しているものであり、適正である。

今後の改善方策や方向性

改善方策・方向性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	文化財を後世に伝えるため、地域住民に郷土の歴史に対する理解を深めていただくため、文化財一斉公開などの事業を展開するとともに市民協働による維持管理を推進する。
1次評価 (1次評価者として判断した今後の事務事業の方法的性 (改革・改善策)) 記入者: 生涯学習課長 中泉栄一 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 ( <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 )		
改革・改善の具体的内容 (改革案・実行計画) 指定文化財を保護、伝承だけでなく、意識して活用・情報発信する事業に取り組み、文化財の理解者を増やすこと。そういう意味で、市民学芸員との連携を深め、昨年度から取り組んでいる「指定文化財一斉公開」、「権名家住宅の管理及び活用事業」の拡充にも努めるとともに、木村家住宅修理工事終了後の「木村家住宅の活用事業」も積極的に進めていくこと。		
2次評価 (2次評価者として判断した今後の事務事業の方法的性 (改革・改善策)) 記入者: 教育部長 飯田 泰寛 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 ( <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 )		
担当部長としての意見・考え方 (1次評価者と同じ場合も記入) 文化財への理解を深め、保護・保存の必要性を伝えることはとても重要です。継続した情報発信に努めながら、地域の魅力度アップに貢献できるよう努めてください。		

# 事務事業評価シート

計画対象年度	平成27年度								
事務事業名	文化芸術振興事業（政策）						事業類型	負担金	
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分 政策経費	根拠法令	かすみがうら市事業費助成型補助金等交付要綱
			10	04	03	07			
総合計画体系	第3章 豊かな学びと創造のまちづくり						総合計画対象	対象	
	第4節 地域文化の継承と創造						市民協働	市民主体	
	[1] 地域文化						担当課係等	郷土資料館	
3 芸術・文化活動の推進						文化振興担当			
事業期間	継続（ 年度～ ）								

## 現状把握の部 (D0)

<b>【目的】</b> 創作・発表意欲の向上、市民文化意識の高揚を図るため、文化・芸術団体及び愛好者育成及びその活動を支援する。	<b>【関連事業】</b> 文化財保護事業 郷土資料館管理運営事業
<b>【期待される効果】</b> 市民の自主的な文化活動を支援しながら、豊かで彩のある文化を創造することができる。	<b>【対象者】</b> 文化協会及び加盟団体 文化芸術愛好者 市民
<b>【全体概要】</b> 文化芸術団体を育成し、文化協会が実施する各種事業及び活動を支援するための経費を計上。また、文化団体及び文化芸術愛好者に情報を提供する。	<b>【特記事項】</b> 平成27年度から文化協会への補助と活動支援を生涯学習課社会教育担当に移管した。また、郷土文化研究会補助金は平成27年度から、千代田史談会補助金も平成28年度から、文化協会補助金の中から支出することとし、廃止とする。
<b>【平成26年度 事業内容】</b>	<b>【平成27年度 事業内容】</b>
文化協会への補助金の交付と活動支援、文化団体及び文化芸術愛好者への展示、発表機会及び情報の提供	文化協会への補助金の交付と活動支援、文化団体及び文化芸術愛好者への展示、発表機会及び情報の提供
<b>【平成28年度 事業内容】</b>	

## ■ 事業費

		H26年度	H27年度	H28年度
財源	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	自主財源	1,182	0	0
	歳入計（千円）	1,182	0	0
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）
	09 旅費	1	0	0
	11 需用費	4	0	0
	19 負担金、補助及び交付金	1,177	0	0
歳出計（千円）（A）	1,182	0	0	
（参考）	当初予算額	1,461	当初予算額	155
職員人工数	0.30	0.10	0.10	
職員人件費（B）	2,349	769	805	
総事業費（A）＋（B）	3,531	769	805	

■指標						
種類	指標名	単位		H26年度	H27年度	H28年度
活動指標	各種会議の開催	回	目標	8.00	0.00	8.00
	文化協会、理事会など		実績	8.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果指標	文化協会主催事業の開催	回	目標	3.00	0.00	0.00
	文化協会団体の相互の交流と共に、活動の成果が発表でき、芸術・文化活動が活性化される。		実績	3.00	0.00	0.00
	市主催事業への参加	団体	目標	3.00	0.00	0.00
	多くの活動発表があることで、創作・発表意欲の向上、市民文化意識が高揚される。		実績	3.00	0.00	0.00

評価の部 (SEE)

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 所管替えした。
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は、税金を投入して事業を行うことが妥当か。	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 所管替えした。
有効性評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上がらない理由はあるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 所管替えした。
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない <b>【理由】</b> 所管替えした。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <b>【理由】</b> 所管替えした。
効率性評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <b>【理由】</b> 所管替えした。
公平性評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 所管替えした。

今後の改善方策や方向性

改善方策・方向性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	平成27年度より社会教育係に所管替えを行った。
<p>1次評価 (1次評価者として判断した今後の事務事業の方法的性 (改革・改善策)) 記入者: 生涯学習課長 中泉栄一  <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合 <input type="checkbox"/> 継続 ( <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 現状維持 )</p> <p>改革・改善の具体的内容 (改革案・実行計画)            イベントや展示会など、展示発表の担当部署であることや講座との連携等の理由から、平成27年度から文化協会事務局を文化振興係 (郷土資料館) から社会教育係に移した。また、会員の高齢化や時代の推移により、活動内容が変わった「郷土文化研究会」と「千代田史談会」については、従来の文化財系の単独補助金をカットし、文化協会加盟団体とした。</p>		
<p>2次評価 (2次評価者として判断した今後の事務事業の方法的性 (改革・改善策)) 記入者: 教育部長 飯田 泰寛  <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合 <input type="checkbox"/> 継続 ( <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 現状維持 )</p> <p>担当部長としての意見・考え方 (1次評価者と同じ場合も記入)            補助団体から自主活動団体となった2団体に対しても、当面の事業支援は継続するようお願いします。</p>		

# 事務事業評価シート

計画対象年度	平成27年度								
事務事業名	帆引き船保存活用対策事業（政策）						事業類型	補助事業	
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	かすみがうら市事業費助成型補助金等交付要綱
			10	04	03	09			
総合計画体系	第3章 豊かな学びと創造のまちづくり						総合計画対象	対象	
	第4節 地域文化の継承と創造						市民協働	行政の関与	
	[1] 地域文化						担当課係等	郷土資料館	
4 観光との連携						文化振興担当			
事業期間	継続（ 年度～ ）								

## 現状把握の部 (D0)

【目的】 本市の誇るべきシンボル「帆引き船及び帆引き網漁法」を後世に伝承していく。	【関連事業】 文化財保護事業 郷土資料館管理運営事業	
【期待される効果】 帆引き船や帆引き網漁法が漁師の高齢化により継続できなくなる恐れがある。保存会を支援することにより、後継者育成や県指定文化財を目指すことにより、帆引き船の認知度を高める効果がある。	【対象者】 霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会	
【全体概要】 帆引き船と帆引き網漁法の調査研究。霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会の支援。帆引き船及び帆引き網漁法の保存、継承対策。	【特記事項】 27年度県補助金により、帆引き船展示施設（格納庫）を建設。29年度から、地域創造から助成を受け、帆引き船の映像記録保存を行うと共に、県指定文化財に向けて帆引き船民俗調査を実施予定。	
【平成26年度 事業内容】	【平成27年度 事業内容】	【平成28年度 事業内容】
指定文化財事例調査、帆引き船保存会の支援	県指定文化財への指定を目指した帆引き船及び帆引き網漁法の調査研究及び各種調整、霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会の活動（帆引き網漁法操業技術継承者育成、帆引き船の普及啓発活動など）支援、帆引き船保存展示施設整備	県指定文化財への指定を目指した帆引き船及び帆引き網漁法の調査研究及び各種調整、霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会の活動支援、映像記録保存事業

## ■ 事業費

		H26年度	H27年度	H28年度
財源	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	自主財源	1,361	16,195	4,984
	歳入計（千円）	1,361	16,195	4,984
歳出	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）
	09 旅費	22	82	115
	11 需用費	0	516	0
	13 委託料	572	486	3,289
	15 工事請負費	0	13,662	0
	19 負担金、補助及び交付金	767	1,449	1,580
歳出計（千円）（A）	1,361	16,195	4,984	
（参考）	当初予算額	1,354	当初予算額	14,786
職員人工数	0.20	0.30	0.30	
職員人件費（B）	1,566	2,307	2,413	
総事業費（A）＋（B）	2,927	18,502	7,397	

■指標						
種類	指標名	単位		H26年度	H27年度	H28年度
活動指標	保存会の支援	業務	目標	3.00	3.00	3.00
	①帆引き船・帆引き網漁法の調査研究 ②帆引き網漁法の技術伝承活動 ③帆引き船の普及啓発（写真展、模型作りなど）		実績	3.00	3.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果指標	文化財の指定	ポイント件	目標	1.00	2.00	2.00
	市、県、国指定文化財と段階的にランクを上げていくことにより、かすみがうら市発祥の帆引き船文化を広めることができる。市指定1 県指定2 国指定3		実績	1.00	1.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

評価の部（SEE）

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 総合計画における、観光との連携を行うものである。
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は、税金を投入して事業を行うことが妥当か。	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> かすみがうら市のシンボルの一つである帆引き船を継続的に維持していくためには、帆引き網漁法の文化的価値の再確認と後継者不足に課題があり、それを解決するための事業である。
有効性評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上らない理由はあるか。	<input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 保存会の支援だけでなく、県指定文化財を目指すために帆引き船の歴史的価値を調査研究する必要があり、また、資料の保存継承をする必要がある。
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない <b>【理由】</b> かすみがうら市を代表する観光帆引き船事業が継続できなくなり、帆引き船発祥の地としての価値が失われてしまう。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <b>【理由】</b> 観光事業として実施することは可能であるが、県指定文化財を目指すための事業には無理がある。
効率性評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。（仕様や工法の適正化、市民の協力など）	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <b>【理由】</b> 後継者問題は、漁師の高齢化により今取り組まなければ技術の伝承ができなくなる。保存会の自主的活動により、職員の負担を少なくすることは可能である。
公平性評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。公平・公正になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 保存会は、帆引き船を市のシンボルとして残したいという思いの人たちであり、支援することは適正である。

今後の改善方策や方向性

改善方策・方向性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	帆引き船は、今後、県指定文化財、国指定文化財を目指していくため、更なる歴史的価値や民俗的価値を調査研究する必要がある。平成28年度は、帆引き船に関わる技術の記録映像作成及び市内の帆引き船操業者からの聞き書きによる民俗調査を実施するが、今後もこのような調査を継続させ、価値づけをしていく必要がある。また、帆引き船展示室が完成したが、適切な保管環境を保つことと共に、活用についても検討していく。
	1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方法的性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持）	記入者：生涯学習課長 中泉栄一
	改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会と連携し、年々、減少、高齢化している帆引き船の関係者の話を聞いたり、記録を残すなどして、文化としての帆引き船及びその操法の形を後世に保存継承していくこと。	
	2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方法的性（改革・改善策）） <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続（ <input type="checkbox"/> 見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持）	記入者：教育部長 飯田 泰寛
	担当部長としての意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 帆引き網漁法保存会の活動支援に向けて、観光商工課との連携が密となるよう努めてください。	

# 事務事業評価シート

計画対象年度	平成27年度							
事務事業名	郷土資料館管理運営事業（政策）						事業類型	管理・運営
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	
			10	04	05	03	政策経費	根拠法令
総合計画体系	第3章 豊かな学びと創造のまちづくり						総合計画対象	対象
	第4節 地域文化の継承と創造						市民協働	市民の関与
	[1] 地域文化						担当課係等	郷土資料館
2 ふるさと教育の推進						資料担当		
事業期間	継続（ 年度～ ）							

## 現状把握の部 (D0)

【目的】	【関連事業】	
市の歴史、文化に関わる事柄の調査研究や各種史料の収集、保存、整理、調査研究などを推進すると共に、それらを展示や講演会、講座等という形で情報発信することで、市民には郷土に誇りと愛着を持つ心を、市外の方には本市に興味と関心を持つ心を育てる。	文化財保護事業 埋蔵文化財事業 富士見塚古墳公園管理運営事業 帆引き船保存活用対策事業	
【期待される効果】	【対象者】	
地域の歴史や文化にふれることで、郷土への愛着や誇りを感じることができる。その心情は、かすみがうら市の居住人口や交流人口を増加させる要因にもなる。	市民及び来館者全般	
【全体概要】	【特記事項】	
市の歴史、文化に関する資料等の収集、整理保存、調査研究及びその公開並びに郷土資料館の管理運営。	平成28年度は、博物館法に基づく登録博物館を目指す。平成29年度は、開館30周年となる年となるため、かすみがうら市を大きくPRできる記念特別展を開催予定。また、今後は、常設展示室のリニューアルや風返稲荷山古墳出土遺物（現在は県指定文化財）の国指定文化財を受けるための収蔵庫の改修についても検討を進めていきたい。活動指標を企画数に変更。	
【平成26年度 事業内容】	【平成27年度 事業内容】	【平成28年度 事業内容】
特別展、企画展の開催及びそれに付随する催しの開催や書籍の刊行、歴史、文化に関する講座や体験教室など、ふるさと教育の推進、資料の整理、受け業務などを担う臨時職員の雇用	特別展、企画展の開催及びそれに付随する催しの開催や書籍の刊行、歴史、文化に関する講座や体験教室など、ふるさと教育の推進、資料の整理、受け業務などを担う臨時職員の雇用、郷土資料館の修繕	特別展、企画展の開催及びそれに付随する催しの開催や書籍の刊行、歴史、文化に関する講座や体験教室など、ふるさと教育の推進、資料の整理、受け業務などを担う臨時職員の雇用、郷土資料館の修繕

## ■ 事業費

		H26年度	H27年度	H28年度					
財源	国庫支出金	0	0	0					
	県支出金	0	0	0					
	自主財源	3,659	4,503	4,933					
	歳入計（千円）	3,659	4,503	4,933					
歳出	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）					
	04 共済費	0	118	0					
	07 賃金	1,721	1,522	1,607					
	08 報償費	207	326	363					
	09 旅費	78	57	174					
	11 需用費	1,375	1,825	1,981					
	12 役務費	278	299	458					
	13 委託料	0	356	0					
	18 備品購入費	0	0	350					
歳出計（千円）（A）	3,659	4,503	4,933						
（参考）	当初予算額	3,161	当初予算額	4,688	伸び率(%)	決	9.54	予	5.22
職員人工数	0.60	0.60	0.60						
職員人件費（B）	4,698	4,614	4,825						
総事業費（A）＋（B）	8,357	9,117	9,758						

■指標						
種類	指標名	単位		H26年度	H27年度	H28年度
活動 指標	講座参加者の増	人	目標	500.00	0.00	20.00
	参加者の増加を見込める講座を企画する。		実績	1,264.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	郷土資料館の年間来館者数の増加	人	目標	11,000.00	11,000.00	11,000.00
	企画展、特別展等で増加が見込める企画プランを考える。		実績	12,461.00	10,473.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

評価の部 (SEE)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 事業の目的が当市の政策体系に結びつくか。	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 総合計画における、ふるさと教育の推進を行うものである。
	②行政関与の妥当性 この事業を市が行う理由は、税金を投入して事業を行うことが妥当か。	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 市の郷土の歴史や文化等の情報が最も集積されているのが郷土資料館であるので、かすみがうら市の魅力的な情報発信が可能となる。
有効性 評価	③成果の向上余地 成果を向上させる余地があるか。成果が上らない理由はあるか。	<input type="checkbox"/> 余地がない <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 登録博物館を目指すことにより、運営の充実が図られる。各地の博物館との連携が深まり、貴重な資料の貸し借りがスムーズになり、更なる魅力的な事業の展開が可能となる。
	④廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合の市民への影響の有無とその内容は。	<input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない <b>【理由】</b> 29年に及ぶ各種資料や各種情報の蓄積が無駄になってしまい、郷土への愛着や誇りが醸成されなくなる。子供たちへのふるさと教育の場もなくなる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似事業との統廃合ができるか。類似事業との連携を図ることにより成果が期待できるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <b>【理由】</b> 他に歴史や文化などの展示や資料収集などを行う施設は市内にはない。郷土資料館にて展示や資料収集を行うことで集約した情報の取り扱いができる。
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 成果を低下させずにコストを削減できるか。 (仕様や工法の適正化、市民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 人件費の削減余地がない <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <b>【理由】</b> 郷土資料館の維持管理や修繕は開館29年となるために増加が見込まれる。現状で市民学芸員の協力を受けながらの運営であるために人件費の削減余地はない。
公平性 評価	⑦受益と負担の適正化 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか。 公平・公正になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <input type="checkbox"/> 見直す余地がある <b>【理由】</b> 入館者には入館料、講座受講生には受講料をいただいております。適正である。

今後の改善方策や方向性

改善方策・方向性	上記評価を踏まえた今後の事業の改善方策・方向性を記入	平成29年には、開館30年をむかえるため登録博物館をめざし、さらに展示室のリニューアルを実施し、さらなる魅力的な事業の展開、情報発信に努めたい。市の集客性ある観光地の一つの歩崎公園の魅力発信施設として機能する郷土資料館を将来的にも継続させていきたい。
1次評価 (1次評価者として判断した今後の事務事業の方法的性 (改革・改善策)) 記入者: 生涯学習課長 中泉栄一 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 ( <input checked="" type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 現状維持 )		
改革・改善の具体的内容 (改革案・実行計画) 特別展やそれに付随する催し、各種講座の開講、市民学芸員の活動、歴史まんがの刊行など、郷土資料館で実施する「ふるさと教育」は確実に浸透してきている。それらを更にグレードアップすべく、28年度は博物館法に基づく登録博物館を目指していく。		
2次評価 (2次評価者として判断した今後の事務事業の方法的性 (改革・改善策)) 記入者: 教育部長 飯田 泰寛 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 ( <input checked="" type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 現状維持 )		
担当部長としての意見・考え方 (1次評価者と同じ場合も記入) 現在作業を進めている博物館登録事務について、業務に遺漏なきよう進めてください		